

# 喜界町 観光振興計画

— 概要版 —



平成29年3月

喜 界 町



## はじめに

喜界町は、奄美大島の東約25kmに位置する喜界島にある一島一町のまちとして、これまで、本計画の上位計画である『喜界町総合振興計画』に基づき、地域活性化に向けた様々な取組を行いつつ、「**きらりとかがやくいい島**」の実現を掲げてまちづくりを進めてきました。

しかし、全国的に人口減少や少子高齢化が急速に進むなか、地域経済規模の縮小など人口減少が地域の将来に与える影響を考えると、これからの本町の発展を目指していくためには、交流人口の拡大により様々な面での活性化を図っていく必要があります、観光を通じたまちづくりへの取組が重要になってきます。

観光は、幅広い産業に関連する非常に裾野の広い総合産業であり、地域経済を引っ張る大きな可能性を秘めています。また、多くの人々が訪れることにより、自分たちのまちを見つめ直す機会につながることも魅力の一つです。

島全体に活気が満ち心豊かに暮らせる町にするために、まさに「観光」は将来へ向けた重要なテーマと考えており、喜界町の活性化に向け柱の一つに据えて取り組んでいく必要があります。

喜界島は、亜熱帯性・海洋性の温暖で豊かな自然環境を有し、世界でも有数の速さで隆起するサンゴ礁の島であり、オオゴマダラやアサギマダラなど数多くの蝶が飛び交う、優れた自然風景を誇る美しい島です。

また、魅力ある集落景観や個性的な伝統文化、日本一の生産量を誇る白ゴマや島固有の在来種である柑橘類やソラマメなど豊かな農業資源も有しています。

そして、人情味豊かで、これらの魅力を今でも連綿と受け継いできた島の人々がおり、集落ごとの共助の精神が息づいていることも大きな財産です。

喜界町における観光振興に向けた取組は、それら魅力ある資源を島全体で守り磨いて輝かせ、島全体に活気が満ち心豊かに暮らせる魅力あるまちにしていくことにあります。そして、その魅力を、ふれあいによる交流を中心とした、持続可能で息の長い取組により伝えていくことで、訪れた人に言葉では表せない島の良さを感じ取ってもらい、喜界島を好きになり、また行きたいと思ってもらえるような島になることを目指しています。

また、訪れた人との交流を通じて島の魅力を見つめ直し、ふるさとへの誇りと愛着が生まれる。そんな取組につながっていくことを期待しています。

喜界島は、鹿児島島から南に380km離れた太平洋上に浮かぶ周囲48kmの小さい島です。この小さな島を光り輝かせて、多くの人々が憧れをもって訪れる「きらりとかがやくいい島」喜界町の実現を目指して、町民をはじめ多くの皆様と共に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様のご協力をよろしくお願ひします。

平成29年3月

喜界町長 川島 健勇

# 観光振興計画策定にあたって

## 計画策定の目的

我が国では、平成 19 年 1 月に観光立国推進基本法が施行され、観光は 21 世紀における日本の重要な政策の柱と位置づけられたところです。

同法に基づき、平成 19 年 6 月に観光立国推進基本計画が閣議決定され、その後平成 24 年 3 月、平成 29 年 3 月にそれぞれ改定されており、地域が持つ特色を生かした魅力ある観光地づくりの取組を推進するとともに、それぞれの地域の伝統、文化などの魅力を内外に発信して国際・国内観光を振興するなど、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進が図られ、これらの取組により、訪日観光客数は、平成 19 年の 835 万人から平成 28 年には 2,404 万人に大幅に増加しています。

鹿児島県では、平成 21 年 3 月に、県民一人一人が「観光立県」に対する理解を深め、担い手としての認識を育み、県、市町村、県民、観光関係事業者及び観光関係団体の共生・協働による「観光立県」の実現に向けて、それぞれの役割や施策の基本となる事項を定めた「観光立県かごしま県民条例」が制定されたところです。同条例に基づき平成 21 年 3 月に基本方針が策定され、その後平成 27 年 3 月に改定されるなど、県民、観光関係事業者、観光関係団体と一体となって「観光立県かごしま」の実現を目指し各般の施策が進められてきており、この間、延べ宿泊者数は、平成 22 年の 504 万人から平成 28 年には 607 万人(速報値)に、外国人延べ宿泊者数は、平成 22 年の 13 万人から平成 28 年には 44 万人(速報値)に増加しています。

このように、国・県においては計画等に基づいた施策の推進により、交流人口の増加に向け着実な成果が現れてきているところです。

こういった国・県の動向を踏まえ、本町においても、喜界島の亜熱帯性・海洋性の温暖で豊かな自然環境、個性的な伝統文化など多様な資源に恵まれた地域的特性を生かし、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録へ向けた広域的な取組も見据えながら、多様化する観光ニーズに対応しうる戦略的な観光振興施策の展開を図っていく必要があり、人口減少・少子高齢化が急速に進展する中、交流人口の拡大により地域の活性化につなげていくことが求められています。

また、観光振興施策を効果的に実施するためには、関係者間の幅広い連携が行われるよう、推進体制の構築も不可欠と考えています。

このようなことから、「喜界町観光振興計画」は、本町の交流人口拡大に向け、これら本町を取り巻く環境や課題等に的確に対応し、関係者間の協力のもと中長期的視点に立って観光振興に取り組むことを目的として策定するものです。

## 計画の位置づけと計画期間

「喜界町観光振興計画」は、喜界町の観光振興へ向けた方針や目指すべき方向性、計画を実現するための具体的な取組内容と島内関係者による実施体制等を取りまとめたものです。

計画期間は、平成 29 年度から平成 33 年度の5年間です。

## 喜界町の観光の魅力

島外から訪れる人の視点で喜界島を見ていくと、観光振興では重要な要素となる様々な地域資源や魅力的な要素が少なくありません。地域資源や魅力ある事物の多くは、島の人の生活に密着しており、喜界島でなければ見ることができず、喜界島らしさを形作っている要素といえます。

▼まちなみや集落の家並



▼一般住宅の庭や生垣



▼石垣の集落



▼食と特産品



▼島内の生活風景



▼島の産業が作り出す景観



## 喜界町の観光の現状と課題

喜界町の観光の魅力を踏まえ、喜界町の観光の現状と課題について、各種調査結果や策定委員会からの意見等をもとにSWOT分析による整理を行いました。

内部要因(強みと弱点)	外部要因(チャンスとマイナス要素)
<b>喜界島の強み/Strength</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学術的価値の高い資源(遺跡、ハマサンゴ 等)</li> <li>島内全体の景観が美しい(日本で最も美しい村連合 加盟)</li> <li>ブランド力のある農作物生産(白ゴマ、在来品種の野菜、柑橘類 等)</li> <li>特徴的な農業インフラ(地下ダム)</li> </ul>	<b>喜界島に訪れるチャンス/Opportunities</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録</li> <li>奄美群島のメディア露出増加による注目度の上昇</li> <li>航空機材の容量増加</li> <li>LCCによる奄美大島の来島者増加</li> <li>島外食品企業の進出</li> </ul>
<b>喜界島の弱点/Weaknesses</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊施設不足</li> <li>情報発信不足</li> <li>正確な観光統計データ不足</li> <li>収益性の高い観光コンテンツが未整備</li> <li>航空運賃が高い</li> <li>船舶の入出港時刻が夜間や早朝</li> </ul>	<b>喜界島で想定されるマイナス要素/Threats</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏季の台風襲来と台風の大規模化</li> <li>時化や霧等の天候悪化による欠航</li> <li>国内観光市場の縮小見込み</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネス客の増加による宿不足</li> </ul>

※網掛け部分は、間接的に観光に影響を及ぼす要素

# 喜界町の観光の基本理念

基本理念は、喜界島の観光を進めていくうえでの基本的な考え方を示すものです。「島を知って楽しむ」、「島に行ってみたくなる」、「島を発信する」という3つの考え方のもと、以下の3つの基本理念を掲げて観光振興に取り組みます。

## 1 島にある様々な資源を活かし、喜界島を知って楽しむ観光をすすめます。

遺跡やサンゴ礁、集落景観や年中行事など、喜界島にある多様な資源を活かし、喜界島をよく知ってもらうことで、来島者は楽しく、居住者は誇りを持てる喜界島らしい観光をすすめます。

喜界島には、学術的にも価値が高い色々な時代の遺跡や、世界的にも有数のハマサンゴといった資源があります。また、サンゴ石で作られた石垣の景観や八月踊りをはじめとする年中行事等も喜界島の魅力を伝える資源です。それらの資源を通し、喜界島を知ることで島を楽しんでもらう観光を考え実現します。島に住む人が島を知ることは、自分の島を見直し、好きになることにもつながります。



## 2 島の暮らしや人との交流を通じ、行ってみたい島～喜界島～を目指します。

喜界島の普段の暮らしを知り、住んでいる人と会うことで、行ったことのない喜界島に行きたくなる、見たことのない風景を見たくなる、のんびりした時間を過ごしたくなる体験や交流を生み出します。

喜界島の暮らしやそこに住む人との交流は、喜界島でなければ出会えない、できない、味わえない代表的なものです。島の人と知り合い、これまで以上に島を好きになってもらえるような、行ってみたい、また行きたいといわれる島を目指します。



## 3 島を訪れた人と住んでいる人、ひとりひとりが喜界島を広く熱く発信します。

多くの人に広く喜界島を知ってもらうために、居住者、来島者、出身者それぞれが熱い思いをもって喜界島を広く伝える仕組みや取組を進めます。

喜界島の楽しさや素晴らしさは、島に住んでいる人や島を訪れた人が実感をもって多くの人に伝えることで、喜界島の根強いファンづくりにつながります。島外に住む出身者が周囲の友人に喜界島を伝えるなど、喜界島に関わりのあるすべての人が、喜界島を発信することが大切です。



# 喜界町の観光の基本方針

基本理念に基づき、喜界町の観光振興を進めるための施策の方向性を示すものとして6つの基本方針を定めました。

## ■ 基本方針 1

### 喜界島の特色ある地域資源を活用したアカデミックな観光の展開

色々な時代の埋蔵文化財や世界的にも有数の隆起サンゴ礁等、喜界島には学術的な価値の高い地域資源が見られます。それらを専門的な知識を持った人が分かりやすく説明し、体験を通して資源に触れることで、喜界島の良さや素晴らしさを大人から子供まで多くの人が楽しみながら知ることのできるアカデミックな観光を展開します。

## ■ 基本方針 2

### 農業など一次産業と地域の食をつなぐ観光の文脈づくり

国内一のシェアを誇る白ゴマをはじめ、サトウキビ、タンカン等の果樹からソラマメ等の在来作物の栽培まで喜界島は農業が盛んな島です。喜界島でとれるこれらの農産物や水産物を活用し、島を訪れる多くの人々が新鮮で美味しい島の食材を味わい楽しめるよう、地域の食文化を軸とする食の魅力づくりに取り組みます。

## ■ 基本方針 3

### 自然資源の保全・活用と広域的なエコツーリズムの推進

奄美群島国立公園の指定や世界自然遺産登録に向けた動きなど、喜界島を取り巻く自然保護の動きは大きく変わるタイミングにあります。奄美群島全体の自然保護の動きと連携した広域的なエコツーリズムを進めながら、喜界島の貴重な自然資源の保護保全と観光への適正な活用を進めます。

## ■ 基本方針 4

### 歴史や文化、集落景観を生かした観光の推進

琉球の影響や薩摩藩との関連が分かる事物、風土に根差した集落景観は、喜界島の歴史や文化にまつわる大きな特徴です。サンゴの石垣や古い高倉、大切に使われている湧水や美しく整えられた民家の庭等を喜界島らしい風景として長く残しながら、多くの人が魅力を味わえる観光に取り組みます。

## ■ 基本方針 5

### 地域住民が島の魅力を伝える仕組みづくりと人材育成

観光客がまた訪れたいくなるためには、訪れた土地の様々な人に出会い、いかに楽しい時間を過ごすことができるかがとても大切です。島に住む人たちが、自らの地域について深く知り、島の魅力を受け継ぎ伝えながら、島を訪れる多くの人たちに島を好きになってもらえるような身近な仕組みをつくっていきます。

## ■ 基本方針 6

### 観光動向を把握した計画的な情報発信と観光基盤の整備

喜界島を訪れる人たちがいつ頃、どのような目的で来島しているのかを知る事は、これからの喜界島の観光振興を進めていくうえで、重要な手掛かりとなります。そのために、島内の関係者の連携をしっかりと図り、観光客の動向やニーズを捉えた効果的な情報発信や必要な観光基盤の整備・充実に努めます。

# 喜界町の観光の基本施策

## 基本方針1

喜界島の特色ある  
地域資源を活用した  
アカデミックな  
観光の展開

## 基本施策

- 学術的価値の高い資源を利用した観光の取組
- 島内の研究機関等を活用した体験型教育観光の推進
- 学会や研究会、視察等の誘致

## 1 学術的価値の高い資源を利用した観光の取組

世界有数の速さで隆起するサンゴ礁や平安期における環東シナ海の広域交易の結節点であった可能性を窺わせる埋蔵文化財など、喜界島の特殊性を示す学術的価値の高い地域資源を十分に活用し、観光資源としての機能充実を図るとともに、観光旅行や特産品づくりなど創意工夫により新たな魅力の創出に努めます。



### 《考えられる具体的施策》

- ・ 島内研究施設等の観光拠点機能の充実
- ・ 遺跡を利活用する観光方策の検討
- ・ 国指定史跡とジオパークの推進による地域資源の客観的な価値評価の確立
- ・ アカデミックなモチーフを楽しむ土産物の開発と売上収益による資源保護（ジオ菓子、三角縁神獣鏡チョコ、ドッキー等を参考にした商品開発 等）

## 2 島内の研究機関等を活用した体験型教育観光の推進

島内の研究機関等と連携し、研究者や学生、島内外の児童や生徒を対象とした体験型の教育旅行を推進します。

### 《考えられる具体的施策》

- ・ 研究者や学生、島内外の児童や生徒を対象とする見学コースや体験プログラムの検討（サイエンスキャンプ、サンゴマルシェの継続的实施、子供向け自然体験の拡充 等）

### 3 学会や研究会、視察等の誘致

喜界島の特長的な地域資源等を生かし、学会や研究会、視察等の誘致に努めます。



#### 《考えられる具体的施策》

- ・ 島外研究者の招聘による小規模な研究会や学会の誘致および、閑散期の宿泊稼働率の向上

基本方針2	基本施策
農業など一次産業と地域の食をつなぐ観光の文脈づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 喜界島の食の魅力向上のための取組の推進</li> <li>● 農業・漁業を中心としたストーリー性の高い観光方策の検討</li> <li>● 農家民泊や農業体験等の受入体制整備</li> </ul>

### 1 喜界島の食の魅力向上のための取組の推進

喜界島産の新鮮で美味しい食材や希少な在来作物を活用し、島で受け継がれてきた食文化の伝統をもとに、島内外の関係機関と連携したメニュー開発や特産品づくりに取り組みます。



#### 《考えられる具体的施策》

- ・ 島内産食材の積極的利用に向けた関係者の連携
- ・ 山羊や花良治ミカン等のかんきつ類をはじめ伝統的な食文化に基づくメニュー開発
- ・ 在来農産物を活用した特産品の開発と情報発信
- ・ 大学等の高等教育機関との包括連携協定に基づく食の魅力づくり

## 2 農業・漁業を中心としたストーリー性の高い観光方策の検討

農業立島としての歩みのなかで築いてきた地下ダムや一本道などの農業基盤やこれまで連綿と受け継がれてきた伝統的な漁法などの農業・漁業資源を積極的に活用し、ストーリー性のある新たな観光メニューを検討するとともに、かつて農耕馬として島の生活に欠かせない存在だった喜界馬を復活させ、その保存と活用を図ります。



### 《考えられる具体的施策》

- 地下ダムや一本道，追い込み漁等を組み込んだ観光の推進
- 農業体験を視野に入れた喜界馬の飼育の検討
- 楽しみとしての釣りやスポーツフィッシング等の受け入れ方策の検討

## 3 農家民泊や農業体験等の受入体制整備

学生やインターンの農業体験等の受入体制の拡充を行うとともに、農家民泊等の推進を図ります。



### 《考えられる具体的施策》

- 学生やインターンの農業体験等の受入体制整備と民泊、ゲストハウス整備の推進  
(村おこしNPO 法人 ECOFF や島キャン等の継続的な受け入れ 等)

### 基本方針3

自然資源の保全・活用と  
広域的な  
エコツーリズムの推進

### 基本施策

- 広域的な連携によるエコツーリズムの推進
- 自然資源の保護保全と適切な観光利用の推進

## 1 広域的な連携によるエコツーリズムの推進

県や奄美群島の各市町村及び広域事務組合等と連携し、世界自然遺産登録や奄美群島国立公園指定等に基づく広域的観光施策に呼応した効果的な取組の実施に努めるなど、奄美群島と一体となったエコツーリズムを推進します。



#### 《考えられる具体的施策》

- ・世界自然遺産登録や奄美群島国立公園等に関する広域的観光施策の効果的活用  
(世界自然遺産奄美トレイルのルート整備、奄美群島のエコツーリズム推進に係る取組との連携 等)

## 2 自然資源の保護保全と適切な観光利用の推進

喜界島の豊かで多様な自然資源を生かし、自然体験施設の充実や適切な維持管理の実施、体験型観光メニューの開発等を行うとともに、資源の保護保全と活用のバランスに配慮した適切な観光利用を図ります。



#### 《考えられる具体的施策》

- ・蝶の飛び交う島づくりの推進  
(島内全域で「オオゴマダラ」や「アサギマダラ」などの蝶が飛び交う姿が観られるよう、繁殖・観察施設等の充実や喜界島本来の植生の維持を実施 等)
- ・島内の自然資源の維持管理と適切な観光活用のための体制整備
- ・海と陸の自然資源を活用した体験型観光メニューの開発  
(陸上から楽しむホエールウォッチング 等)

#### 基本方針4

歴史や文化、  
集落景観を生かした  
観光の推進

#### 基本施策

- 集落景観や農業景観など喜界島の特色ある景観の維持と活用
- 歴史的・文化的資源の維持継承と観光活用による活性化の推進

## 1 集落景観や農業景観など喜界島の特色ある景観の維持と活用

喜界島に残る美しい景観の保護保全に努めながら、これまで気づかなかった特色ある風景の掘り起こしや島内外への積極的な情報発信を行うなど、島内景観の魅力を高め、周知する取組を進めます。



### 《考えられる具体的施策》

- ・ 景観計画の策定による良好な景観の維持
- ・ 南国らしい植物等を用いた島内の景観整備の検討
- ・ 集落景観を損なわず、まちあるきを楽しめる安全な歩行空間整備の検討
- ・ 集落景観を構成する石垣や湧水、住宅の庭等の魅力の見直し  
(オープンガーデン、ガーデニングツアー等の島内外の人が楽しめる取組の実施 等)
- ・ 美しい村連合加盟団体として島内の魅力ある景観の積極的な情報発信  
(「日本でもっとも美しい村連合」に加盟している島内景観の積極的な誘客活動利用 等)

## 2 歴史的・文化的資源の維持継承と観光活用による活性化の推進

島に残る個性あふれる伝統行事や祭礼への観光客の参加を通じ住民との交流を推進するとともに、数多く残る歴史的資源および文化財等の観光活用に努めます。

### 《考えられる具体的施策》

- ・ 集落行事等の伝統行事の継承と観光客との交流による活性化の推進  
(ソーメンガブー等の伝統行事への観光客受入れ、個人旅行者を対象とする八月踊り等の集落行事体験の検討)
- ・ 歴史的資源や文化資源を活用した観光スタイルの構築  
(あまみシマ博覧会プログラムの旅行商品等への展開 等)

## 基本方針5

地域住民が島の魅力を伝える仕組みづくりと人材育成

## 基本施策

- 集落めぐりの推進による島全体の魅力向上
- ガイド組織の育成支援と住民への意識啓発
- 児童生徒の地域学習を通じたまちづくりへの意識醸成

### 1 集落めぐりの推進による島全体の魅力向上

集落間の移動など島内を快適に移動できる環境整備を進めるとともに、集落における観光拠点の整備充実を図りながら集落の魅力向上に努めます。



#### 《考えられる具体的施策》

- ・観光拠点としての集落売店の活用と連携体制の構築
- ・路線バスと連携した島内サイクリング観光の展開
- ・廃校の宿泊施設利用による積極的な観光客受入れ体制の検討  
(スポーツ合宿、研修等の誘致による廃校の宿泊施設の稼働率向上 等)

### 2 ガイド組織の育成支援と住民への意識啓発

町民一人一人が観光への理解を深め、おもてなし意識の醸成を図るとともに、観光を支える組織や人材の育成を支援します。



#### 《考えられる具体的施策》

- ・よんよ〜り喜界島をはじめとしたガイド組織の後継者育成と活動支援
- ・飲食店や観光客が立ち寄る施設の関係者を対象とするおもてなし意識の醸成  
(観光関連事業者への接遇研修の実施 等)

### 3 児童生徒の地域学習を通じたまちづくりへの意識醸成

島内の児童や生徒を対象とする自然・歴史・文化等の学習機会を提供するとともに、観光を通じたまちづくりへの参画を促し、地域に対する誇りや郷土を愛する心を育む取組を行います。

#### 《考えられる具体的施策》

- ・島内の児童や生徒を対象とする自然、歴史、文化等の地域学習の推進
- ・喜界高等学校との連携による生徒の観光施策の研究提案等の実施検討

基本方針6	基本施策
観光動向を把握した計画的な情報発信と観光基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>● 観光動向の把握と観光推進のための連携体制の構築</li><li>● 効果的な誘客方法の検討とプロモーションの実施</li><li>● 多様な媒体を活用した情報発信や島内環境整備</li><li>● 交通アクセスの利便性と快適性の向上</li></ul>

### 1 観光動向の把握と観光推進のための連携体制の構築

効果的な観光施策の展開を図る観点から、旅行者動向の継続的な把握を行うとともに、島内外の関係者による横断的な観光推進体制の構築を図ります。

#### 《考えられる具体的施策》

- ・島内の横断的な組織による観光推進体制の構築
- ・島内の観光事業者（宿泊、交通等）と連携した旅行者動向の継続的な把握

### 2 効果的な誘客方法の検討とプロモーションの実施

一般観光客と特定目的の来島者へ向けた効果的な観光プロモーションの展開を図るとともに、企業との連携などによる新たな誘客方法を検討します。

#### 《考えられる具体的施策》

- ・一般観光客と特定目的の来島者へ向けた効果的な観光プロモーションの検討  
(東京での来島者イベント、専門分野向け媒体への情報提供、現状サイトの確認 等)
- ・スポーツ合宿・イベント等の開催や企業との連携による誘客方策の検討  
(具体的な方策：会員組織を持つアウトドアメーカー、自転車メーカー等今後の喜界島の観光方策と関連のあるメーカーとのタイアップの検討 等)

### 3 多様な媒体を活用した情報発信や島内環境整備

SNSを活用したきめ細やかな情報発信など、多様な情報ニーズに対応できる様々な媒体による情報発信に努めるとともに、来島者に配慮した島内環境の整備を図ります。

#### 《考えられる具体的施策》

- ・パンフレットやマップ等の制作
- ・SNS等を活用したきめ細かな情報発信
- ・統一された観光案内板や幹線道路状の案内表示、集落名の表示看板等の整備
- ・島内 Wi-Fi 整備の促進

### 4 交通アクセスの利便性と快適性の向上

空港や港湾施設の交通拠点施設としての機能充実を図るとともに、喜界町への交通アクセスの向上に向けた取組を検討します。



#### 《考えられる具体的施策》

- ・空港や港湾施設等の交通拠点の機能充実と利便性の向上  
(港の旅客待合所の快適性向上、未利用施設の利活用検討 等)
- ・交通アクセス向上に向けた取組の推進  
(LCC と船を乗り継ぐモデルルートを紹介、冬季の利用促進、奄美大島～喜界島間の不定期航路の検討 等)
- ・生活航路を使った旅の快適性の向上  
(具体的な方策：船内環境の改善、船内の楽しみ方の紹介や提案 等)
- ・クルーズ船への対応を考慮した港湾施設の充実

# 喜界町観光振興計画体系図

## 基本理念

- 1 島にある様々な資源を活かし、喜界島を知って楽しむ観光をすすめます。
- 2 島の暮らしや人との交流を通じ、行ってみたい島 ～喜界島～ を目指します。
- 3 島を訪れた人と住んでいる人、ひとりひとりが喜界島を広く熱く発信します。

## 基本方針

### 〔基本方針1〕

喜界島の特色ある地域資源を活用したアカデミックな観光の展開

## 基本施策

① 学術的価値の高い資源を利用した観光の取組

② 島内の研究機関等を活用した体験型教育観光の推進

③ 学会や研究会、視察等の誘致

### 〔基本方針2〕

農業など一次産業と地域の食をつなぐ観光の文脈づくり

① 喜界島の食の魅力向上のための取組の推進

② 農業・漁業を中心としたストーリー性の高い観光方策の検討

③ 農家民泊や農業体験等の受入体制整備

### 〔基本方針3〕

自然資源の保全・活用と広域的なエコツーリズムの推進

① 広域的な連携によるエコツーリズムの推進

② 自然資源の保護保全と適切な観光利用の推進

### 〔基本方針4〕

歴史や文化、集落景観を生かした観光の推進

① 集落景観や農業景観など喜界島の特色ある景観の維持と活用

② 歴史的・文化的資源の維持継承と観光活用による活性化の推進

### 〔基本方針5〕

地域住民が島の魅力を伝える仕組みづくりと人材育成

① 集落めぐりの推進による島全体の魅力向上

② ガイド組織の育成支援と住民への意識啓発

③ 児童生徒の地域学習を通じたまちづくりへの意識醸成

### 〔基本方針6〕

観光動向を把握した計画的な情報発信と観光基盤の整備

① 観光動向の把握と観光推進のための連携体制の構築

② 効果的な誘客方法の検討とプロモーションの実施

③ 多様な媒体を活用した情報発信や島内環境整備

④ 交通アクセスの利便性と快適性の向上

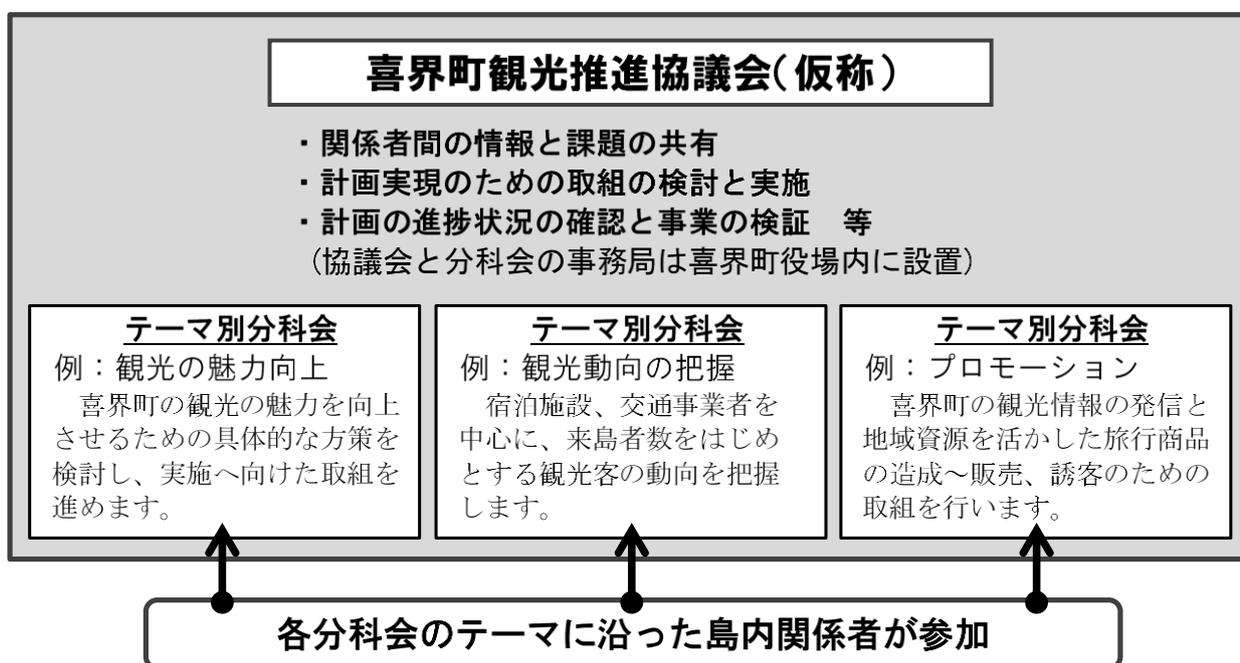
# 喜界町観光振興計画の実現へ向けて

## 1 推進体制の整備

本計画に基づき、喜界町の観光振興を実現させるためには、宿泊施設等の観光事業者だけでなく、島内の農業・漁業関係者、飲食物販店、観光推進団体や行政機関等とともに、喜界島に住む多くの人々が広く連携し、観光を推進する体制づくりが必要です。

このため、島内の多様な分野の関係者の参画による「喜界町観光推進協議会(仮称)」を設置し、定期的な情報と課題の共有を行うとともに、計画の実現を目的とする具体的な取組の検討と実施、計画の進捗状況の確認や事業の検証を進めるものとします。

### ■「喜界町観光推進協議会(仮称)」イメージ(案)



※協議会のメンバーは観光振興計画策定委員会の委員をコアメンバーとする。

## 2 数値目標の設定

本計画で定めた様々な取組を進めるにあたっては、喜界町で観光に関わる全ての人々が、明確な目標を共有し、その目標を目指して観光振興につながる活動に関わることが求められます。

設定する目標には、いくつかの考え方がありますが、喜界町の観光振興計画では、喜界島を訪れた人数(入込客数)を計画推進の目安と考え、数値目標として設定しました。

	現状値 (平成25～27年の平均)	目標値 (平成33年)	増加数 増加率
年間入込客数	53,306人	65,000人	11,694 (22%増加)

入込客数の現状値は、「奄美群島観光の動向(平成27年)」をもとに算出

**喜界町観光振興計画-概要版-**

平成29年3月 喜界町

〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町大字湾 1746 番地 tel:0997-65-1111

